

【配点】
1 各1点×40
1・2・3・2・3 各2点×16
2・3・3 各6点×2
4 18点 その他各4点×12

1

36	31	26	21	16	11	6	1
音信	衛星	効	断	仮説	人心	細心	むげ
2	7	12	17	22	27	32	37
低頭	観葉	写	異議	極言	快方	委任	うか
3	8	13	18	23	28	33	38
博覧	蒸気	周	照会	支持	盛夏	操縦	みぜに
4	9	14	19	24	29	34	39
異口	勤	破	体勢	要地	安危	新旧	あいせき
5	10	15	20	25	30	35	40
医食	量	収	故人	向学	規律	感化	ぶこつ

2

3

① あ

② さ

③ ま

④ し

⑤ い

① 欠

② 天

③ 漢

④ 潮

⑤ 画

1

2 A

ウ

B

イ

C

オ

みんなの前で自分はサイン帖は書かないと言ったこと。

(同意可)

4

ア

5

ウ

6

ア

7

の

ん

き

な

や

つ

8

イ

【配点】 ① 1 各1点×40 ① 2・3・② 2・③ 6 各2点×16 ② 3・③ 7 各6点×2 ④ 18点 その他各4点×12

3

1 生命絶滅のリスク 2 環境 きた

(完答)

3 だから、も 4 X オ Y ウ Z イ

(完答)

5 イ 6 A オ B ウ C ア

7 の じ 説 が 正 し い の 進 化 に つ い て ラ マ ル ク

(同意可)

8 エ

4

私たちが芸術に接する場合、知識
や解説なしには芸術の観賞はなし
得ないところから考え、定評に
たよろうとする態度を捨て、自分
が直接対象から受けける印象や感
をまず大切にしなけれればなら
ない

(同意可)

1 (漢字)

おさえるべきポイントを意識しよう。1～8は四字熟語あるいは四字の組み合わせで使われることばの一部になっている。9～16は同訓異字。17～31・35は同音異義語に注意すべきもの。また、これらの中には字形に注意すべきものや、語彙として難しいものもあるだろう。間違った漢字を直す際には必ず自分の間違え方を見た上で、それを意識した直しをしなければならぬ。

2 (和語)

意味はすべて設問に書いてある通り。テキストには表でまとめられていたのだが、ふだん使い慣れていないものほど覚えにくいであろう。少なくとも今回間違ったものは頭に入れておこう。

3 (対義語)

①は「決」と書いてしまう間違いが多い。意味を考えれば「決」であるはずがない。②は「点」と間違えないように注意すること。③は「熱血漢」「正義漢」のように、「漢」が「男」という意味を表すということ覚えておこう。④は「調」などと書かないように気をつけること。⑤は「画」に「区切る」という意味があり、したがって時代を区切るほどの新しい考えなどを表す意味になる。

2

1 本文を最後まで読めば明らかだが、もちろん恭介は野村さんに好意を抱いている。その子に対して意地悪ができることを喜んでいのである。この物語の中では卒業という現実から目を背け、常に気持ちとは反対の行動をしてしまう思春期の少年の姿を描いているので行動が矛盾しているのはおかしくないのである。

2 A「なみなみ」は液体が容器にあふれるほどいっぱいにあるさま。B「ばらばら」は本などのページをめくる音やそのさまを表す語。C「がたがた」は重くて騒々しい感じで響く音を表す語。

3 この時点ではまだ「今朝」あったことは書かれていない。給食は当然昼の話である。しかしこの時点で、「誰も恭介にサイン帖を持ってこな」くなるような出来事であることはわかる。それをふまえて疑問を保持しながら読み進めると、「みんなの前で、僕は書かないよって言ったんだ」というところが出てくるので、ここと結びつける。この部分には「何を」書かないのか書かれていないので、「サイン帖を」ということばを補わなければならない。

4 「不適当なもの」を選ぶことに注意すること。直後を読み進めていくと、中学に行ったらどうなるかが書かれており、しめくくり「あーあ。ジャングルに住みたい」と言っている中で、覚悟を決めているというAは間違いである。

5 恭介は野村さんとかく好きなので、もしペットがいたらペットにさえも嫉妬してしまうということなのである。

6 前にも「ジャングルに住みたい」ということばがあったが、いずれも「卒業」が嫌だからである。エは「遊び」「勉強」に限った内容になっているのがよくない。恭介にとって一番の問題は野村さんとの別れである。

7 「ぼんやりした教師」というのは大島先生のことなのだから、大島先生を表した別のことばで似ているものをさがせばよい。8 「日ざしがあかるい」という表現から、プラスイメージの内容であることがわかる。あれだけ書かないと言っていたサイン帖を野村さんのものだけでも書いたことや、もし自分のサイン帖を野村さんに渡したら何を書いてくれるかを想像しているところなどから、少しだけ恭介の気持ちにも変化が見られる。

3

1 設問に用意された文の「が分散されるから」をヒントに、何が分散されるのかを読み取ろう。本文の最後に、「生命絶滅のリスクが分散され」とあり、これは生物多様性の重要性を述べている内容としても合っている。

2 問いかけの答えがどこで出てくるのか、を意識しながら文章を読むようにしてほしい。いくつか答えになりそうな内容はあるが、すべてをチェックしながら字数に合うところを答えにする。解答になっている部分は「環境が変化し、生物が絶滅と生き残りをくりかえしてできあがつてきたのが、いまの多様性の姿ということになる」と、明らかに問いかけの答えとなる文末となっている。

3 この前に述べられていた「仮定」をさかのぼってさがせば、「だから、もし、地球が栄養に満ちていて……あったならば……」という部分が見つかる。

4 X:「個体の数をとにかく増やせばいい」という目的に対して「同じパターンの分裂をひたくりかえす」方法は「効率的」と考えられる。Y:生まれる前に決まっていともう変えられないという意味での「決定的」になる。Z:ラマルクの説の内容なので、生まれてからのちという意味の「後天的」とするのが正しい。

5 Aは「彼は適者生存という言葉を生み出した」が明らかに違う。ウは「フランス革命の啓蒙思想を生み出し」が誤り。「啓蒙思想から生まれ」とあった。エは「ラマルクの説は」以降が根拠のない内容になっている。

6 Aは「ダーウィンの説が現在では正しいとされる」↓しかし↓「わかっていないこともたくさんある」というつながり。Bは「ラマルクの説を部分的に肯定する現象」の具体例が書かれているので「たとえば」が入る。Cは直前の内容をまとめて「発現形態が変わったということになる」と説明しているので、「つまり」が入る。

7 ラマルクの説は昔からあった人間の願望と結びつくようなものだが、だからといってそれを正しいとは言えないのだということである。ただし、「ラマルクの説は正しくない」などと言い切るのもよくない。

8 この文章は生物多様性が生まれた理由や経緯を述べているのであり、温暖化の対策については何も語っていない。

4

「直接対象から受ける印象や感動に勝つていいはずはありません」「何よりもまず……すべてを自分の尺度から始めなくては……高い美しさを感じ得るようになれない」などから主な内容をおさえる。あとはこの筆者が否定しているものも書くことよいだろう。

以上